

解 答

1 (C)	2 (D)	3 (C)	4 (B)	5 (A)	6 (C)
7 (D)	8 (D)	9 (B)	10 (B)	11 (C)	12 (A)
13 (A)	14 (B)	15 (B)	16 (A)	17 (B)	18 (B)
19 (C)	20 (B)				

1. 「私は中国に行ったことがないが、行きたいと思っている」

▶ **have been to** ~ 「～に行ったことがある」 [経験]

[例] He has been to Thailand.

(彼はタイに行ったことがある。)

cf. **have gone to** ~ 「～に行ってしまった」 [完了・結果]

[例] He has gone to Thailand.

(彼はタイに行ってしまった。[→今はここにいない])

2. 「ケイティーとウィリアムは4月に結婚することを希望している」

▶ **get married (to ~)** 「(～と)結婚する」 受動態を作るのに, **be**動詞の代わりに **get/become**などを使うことがある。 **get**を使うのは「～になった」のように変化を表す場合である。

▶ (A)**marriage**「結婚, 結婚式, 結婚生活」, (B)**marry**「～と結婚する」,

『結婚』に関する慣用表現

marryは「～と結婚する」の意味では他動詞用法で用いるので, **with**や**to**などの前置詞は不要。 (×**marry with[to] ~**)

be married to ~ 「～と結婚している」

get married to ~ 「～と結婚する」 (= **marry** ~)

A is married to B 「AはBと結婚している」

▶ **marry A to B** 「AをBと結婚させる」 の受動態

3. 「ジャネットは肘を痛めたので、テニスをするのをやめた」

▶ **quit doing** 「～するのをやめる」 (=stop doing)

[例] Quit bothering me.

(面倒をかけるのはやめてくれ。)

動名詞だけを目的語とする他動詞

動名詞だけを目的語とする他動詞には次のようなものがある。いずれも不定詞を目的語にすることはできない。

admit doing 「～するのを認める」 **avoid doing** 「～するのを避ける」

practice doing 「～を練習する」 **deny doing** 「～することを否定する」

enjoy doing 「～するのを楽しむ」 **finish doing** 「～するのを終える」

imagine doing 「～することを想像する」

miss doing 「～し損なう」 **stop doing** 「～するのをやめる」

give up doing 「～するのをやめる」 **escape doing** 「～するのを逃れる」

evade doing 「～するのを避ける」 **quit doing** 「～するのをやめる」

suggest doing 「～することを提案する」

mind doing 「～するのを気にする/嫌がる」

postpone doing 「～するのを延期する」 (= put off doing)

consider doing 「～することを考える」

4. 「サリーがひどい風邪なのはわかるが、彼女が買った薬はあんなに眠くなってしまうので、服用すべきではないと思う」

▶ 助動詞 **should**の後なので、動詞の原形で始まる(B), (D)に絞られる。**take**を能動態で使って, **take medicine**「薬を飲む」となる(B)が正解。

5. 「来週、私たちの会議は金曜日ではなく水曜日に開かれる」

▶ **hold the meeting**「会議を開催する」の受動態なので(A)が正解。他の選択肢はすべ

てholdを能動態で使っている。

□ instead of ~ 「～の代わりに/～ではなく/～しないで(*doing*)」

Instead of going to the party, Mike studied at home.

(マイクはパーティーに行かないで家で勉強した。)

6. 「ジョンは今日とてもおとなしい。いったいどうしたのだろう」

► “What is [What's] the matter?”「どうしたの？」という会話表現が間接疑問文になったもの。間接疑問文は「S+V」という平叙文と同じ語順になる。

■ 間接疑問

疑問文がほかの文の一部に組み込まれ、名詞節として主語・(動詞/前置詞の)目的語・補語などになるとき、これを間接疑問という。

間接疑問では、疑問詞の後は平叙文と同じ「S+V」の語順になる。

[例] I don't know + Who was it? → I don't know who it was.

□ What's the matter (with you)?「どうしましたか」(=What's wrong (with you)?)

7. 「日本と比べて、自動車教習所に通う費用はアメリカではずっと安い」

► 選択肢の中でless expensiveという比較級を強調する語句は(D)のfarである。

比較の差を表す形

比較級の前にさまざまな語句を置いて、差がどの程度あるかを表す。

(1) 差を漠然と表す場合

□ much/(by) far/a lot + 比較級「ずっと～/はるかに～」

□ even/still + 比較級「さらに～」

□ a little/a bit + 比較級「少し～」

She is **much** [**a little**] **taller** than her mother.

(彼女は母親よりずっと[少し]背が高い。)

(2) 差を明確に表す場合(具体的な数値を含む語句を比較級の前に置く)

□ two years/5 centimetersなど + 比較級「2年～/5センチ～」

She is **5 centimeters taller** than her mother. [ふつうの言い方]

= She is **taller** than her mother by **5 centimeters**. [差を強調する言い方]

(彼女は母親より5センチ背が高い。)

□ (as) compared with[to] A 「Aと比較すると/Aと比べると」

We have a (more) humid summer **compared to** what you have in London.

(ロンドンに比べて当地の夏は湿度が高いです。)

8. 「飛行機に乗るときはいつも、窓側の席に座ろうと努めている」

► a seat by the window 「窓側の席」(=a window seat)

↔ an aisle seat 「通路側の席」

[例] Could we have a seat by the window?

(窓際の席がよいのですが。)

9. 「こんなに美しい日没は見たことがない。空が真っ赤だ」

□ have never done 「一度も～したことがない」

I have never seen such a rude man. [経験]

(そんな失礼な男には一度も会ったことがない。)

cf. hardly[scarcely] ever 「めったに～ない」 (= almost never/seldom)

Ayako's on a diet. She **hardly ever** eats any meat.

(アヤコはダイエット中で、めったに肉を食べない。)

cf. have yet to do 「まだ～していない」

The new theory **has yet to** be proved.

(その新しい理論はまだ証明されていない。)

10. 「外出する前にガスを閉めるのを忘れないようお願いします」

► 直後に文があり、接続詞を要する箇所なので、前置詞のduringは除外できる。意味上、外出する「前に」ガスを閉めるのを忘れずに、となるので(B)が正解。

□ **forget to do** 「～することを忘れる」 [未来]

Don't forget to meet her.

(彼女に会うのを忘れないでね。)

► Don't forget to do = Remember to doの書き換えも重要である。

□ **forget doing** 「～したことを忘れる」 [過去]

I'll never forget meeting her.

(彼女に会ったことは決して忘れません。)

□ **turn off** ~ 「(テレビ・ラジオ・電灯など)を消す/(ガス・水道など)を止める」

⇒ **turn on** ~ 「(テレビ・ラジオ・電灯など)をつける/(ガス・水道など)を出す」

She turned off all the lights which had been left on.

(彼女はつけっぱなしの明かりを全部消した。)

She tuned on the TV.

(彼女はテレビをつけた。)

11. 「シャーリーがこんなに料理ができるなんて驚きです」

► be capable of doing 「～することができる」 (=be able to do)

► (A)talented「才能のある, 有能な」, (B)skilled「(…に)熟練した」, (D)は be able to doで「～することができる」

□ **A is capable of doing** 「Aは～することができる」

That school needs some people who are capable of teaching English.

(あの学校では英語を教えられる人を何人か必要としている。)

「Aは～することができる[できない]」の表現

□ **A is able[unable] to do** —— A(主語)は『人』

□ **A is capable[incapable] of doing** —— A(主語)は『人』『物』

□ **It is possible[impossible] for A to do** —— 『人』を主語にしない

12. 「今晚映画に行きたいですか、それともDVDを借りたいですか」

► (A)ratherは副詞。would rather doで「むしろ～したい」というイディオムになる。

► (B), (C), (D)は動詞で、空欄のあとにrentという動詞の原形があるため入れることができない。

□ **would rather do** 「むしろ～したい」

► この表現would rather do than doのthan do以下が省略された形。短縮形は'd ratherになる。

I would rather stay home.

(私は家にいたいのです。)

cf. **would rather A than B** 「BするよりもむしろAしたい」

► A, Bはともに動詞の原形が入る

Most young people would rather spend money than put it in the bank.

(ほとんどの若者はお金を銀行に預けるよりも使いたいと思っている。)

13. 「ポールは明日、地域のレジャー施設の課長職の面接を控えている」

► **the position of manager** 「課長の地位, 課長職」

► (B)workは広い意味でやるべき「仕事」, (C)occupationは「職業」, (D)businessは営利を伴う事業・商売上の「仕事」という意味である。

14. 「英会話同好会では、次の秋に南山演劇祭で『ライオンキング』を上演します」

► give a performance of ~ 「～を上演する」

► (A)drama「劇; 劇的な状況」, (B)performance「上演;(機械の)演奏」, (C)show「見せ物, 芝居」, (D)display「陳列」

giveを用いた慣用表現

□ **give a play** 「劇を上演する」

□ **give a lecture** 「講義をする」

□ **give in to** ~ 「～に屈する」

□ **give in** ~ 「～を提出する/降参する」

□ **give rise to** ~ 「～を引き起こす」

□ **give ~ a ride** 「～を乗せて行く」

15. 「マイケルはまだ宿題が終わっていなかったから、わざと今日の英語の授業に出なかったのだろう」
- ▶ 宿題が終わっていなかったので「わざと」今日の授業をサボった、という内容だと考えられる。正解は(B)のon purpose「故意に、わざと」。
 - ▶ (A)by accident「偶然に」(= accidentally), (C)by chance「偶然に、たまたま」, (D)on demand「要求があり次第」
- **on purpose** 「故意に/わざと」 (= intentionally/deliberately)
- He believes that I made a mistake *on purpose*.
(彼は私がわざと間違えたと思っている。)
16. 「どうして一部の会社は動物実験で化粧品を検査するのだろうか」
- ▶ conduct experiments「実験を行う」
 - ▶ (B)proceedには「(裁判・実験などが)行われる」という意味があるが、自動詞なので「実験」を目的語にはとれない。
- [例] The project *is proceeding* well.
(計画は順調に進行中だ。)
- **do[conduct, perform] an experiment on A** 「Aを対象にして実験する」
do[conduct, perform] experiments on animals 「動物実験をする」
17. 「この古いカメラはどうするつもり?もし要らないのなら、私がもらうけど」
- ▶ intend to do「～する意図がある/～するつもりである」は助動詞に近い表現で、with this old camera「この古いカメラに関して」, What do you intend to do?「何をする[どうする]つもりですか?」(= What are you going to do?)となる。
 - ▶ (C)decideは現在形で使えないこともないが、本問の文脈上現在完了とするのが自然である。decide to do「～することに決める」
- **intend to do** 「～するつもりである」 (= mean to do)
- I *intend to* go to Shanghai next year.
(来年上海へ行こうと思っている。)
18. 「申し訳ございませんが、当銀行はあなたの融資申請を承認できません」
- ▶ (B)approve「～を承認する」が正解(application「申請」)。(A)admitは「～をしぶしぶ認める」という意味なので不適。(C)agree, (D)consentも「認める」という意味だが、自動詞なので文法的に不可。
- **approve[他動詞]と approve of ~[自動詞]の違い**

他動詞approveは、「計画・提案などを公的に受け入れる」場合、前置詞ofを伴い自動詞として使われるときは、「人・行動・考え方などを正しいものと思っている」場合に使われる。

The request needs to be **approved** by a committee. [受動態]
(その要求は委員会の承認が必要だ。)

The manager **approved of** my plan.
(支配人は私の計画に賛同した。)
19. 「市の年間予算の大部分は、新しい学校を建設するために使われました」
- ▶ substance「物質、中身」→ substantial「実質的な、中身のある」で, a substantial part of ~「～のかなりの部分/～の大部分」となる。the annual budget「年間予算」その他は, (A)maximum「最大限の」, (B)widespread「広範な」, (D)beneficial「有益な」という意味。
20. 「トヨタは、ガソリンの代わりに水を利用するタイプのエンジンを開発中です」
- ▶ a type of ~「一種の～」(=a kind of ~/ a sort of ~)が正解。
 - ▶ (D)production「製品」は工場などで作られる個々の製品を指すので、この文脈では不自然。(A)sketch「スケッチ、概略」, (C)feature 「特徴」。
- **instead of ~** 「～の代わりに/～ではなく/～しないで(doing)」